

学年	高校1年	教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2
教科書名	書 I (光村図書)			副教材名	なし		
クラス・コース	特進, N進学, スポーツ, 芸能			担当者名	細井・笹野		

I. 目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

II. 授業のねらい

- ・用具用材の特徴を理解し、適切に扱えるようにする。
- ・古典に基づく基本的な点画や線質の表し方を理解し、その用筆・運筆の技法を習得する。
- ・字形の構成を理解し、全体の構成を工夫する。
- ・意図に基づく表現を構想し、工夫する。
- ・日常生活における書への関心を高め、その効用を理解する。
- ・見ることを楽しみ、書的美しさと表現効果を味わい、感じ取ることができるようにする。
- ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解する。
- ・漢字の書体の変遷、仮名の成立等を理解する。

III. 授業の進め方

1. 書の知識と実技について、全体説明と個人指導を行う。
2. 古典臨書を基にした創作の時間を適宜採り入れる。
3. 実用書、硬筆の練習を適宜採り入れる。

IV. 学習上の留意点

書写が「文字を正しく整えて速く書く」学習であり、そこに「意図を持った表現」を加味したものが書道の学習であることを理解するよう努める。また、書道史の知識をもとにした鑑賞や表現ができるように努める。

V. 定期試験

定期試験期間の試験は実施せず、各単元終了時に実技テストを実施する。

VI. 評価の方法

授業内での提出作品、単元ごとの実技テストによる評価、忘れ物、授業態度など。

VII. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	ガイダンス「書写から書道へ」、 基本点画の練習	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な用具を準備しているか。 ・作品提出 ・授業態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・長く楷書の基本として尊ばれてきた唐代の楷書の美を理解して基本的な筆使い、字形の整え方、全体構成の方法などを身につける。 ・北魏時代の楷書の特徴や文化、表現の多様性を理解し、創造的な表現に生かすことができる。 ・古典を比較鑑賞し、書風の違いを理解する。
	5	1. 漢字の書 ・はじめに 漢字の変遷とさまざまな書体		
	6	① 楷書 あなたはどの楷書が好き？ 唐の四大家に学ぶ、楷書の基本		
	7	・「九成宮醴泉銘」の臨書 ・「孔子廟堂碑」の臨書 ・「顔氏家廟碑」の臨書 実技テスト 3. 表現を広げよう (1) 牛橛造像記」の臨書 4. 鑑賞を深めよう		
二学期	9	② 行書 行書の基本を押さえよう ・「蘭亭序」の臨書	<ul style="list-style-type: none"> ・作品提出 ・授業態度 	<ul style="list-style-type: none"> 行書の特徴を理解し、多様な書風に関心をもつ。 ・「書聖」とよばれる王羲之の書の臨書を通し、行書の特徴を捉える。 ・隸書の書かれた背景を理解して臨書に取り組む。 ・書の一分野としての篆刻に興味を持ち、適切な技法によって制作することができる。 ・篆刻の用具用材の扱い方を理解する ・選文・検字から押印まで。各自の名前の印を刻る。
	10	・実技テスト ③ 隸書 ・隸書の基本を押さえよう		
	11	・「曹全碑」の臨書		
	12	2. 篆刻に挑戦しよう		
三学期	1	3. 仮名の書 1. はじめに 仮名の成立と種類	<ul style="list-style-type: none"> ・作品提出 ・授業態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・細字の用具、用材の扱い方、姿勢、執筆法を理解する。 ・仮名古筆の用筆運筆や線質、字形を理解して表現する。
	2	2. 文字の造形を学ぶ ・仮名の基本的な筆使いを押さえよう		
	3	・なめらかな用筆で書く平仮名 (平仮名の字源を覚え、平仮名单体を臨書する) ・平仮名の字源の小テスト ・平仮名单体の実技テスト		

※ シラバスの内容については、理解度やその他の都合により変更することもあります